令和２年度　事業報告書

社会福祉法人　秋田県身体障害者福祉協会

目　　次

（頁）

Ⅰ　概　況

［組織運営の実績］　・・・　1

［事業の実績］　・・・　4

【1】（重点目標1）　障害者支援施設秋田ワークセンターの運営・管理　・・・　4

秋田ワークセンター相談支援事業所の運営・管理　・・・　4

コミュニティライフサポート谷内佐渡ホームの運営・管理　・・・　4

【2】（重点目標2）　障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進　・・・　5

【3】（重点目標3）　市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化　・・・　6

【4】（重点目標4）　研修開催による人材育成事業の推進　・・・　8

【5】（重点目標5）　3障害（身体・知的・精神）を統合した事業の推進　・・・　9

Ⅱ　事業別の概要

【1】障害者支援施設秋田ワークセンター事業の実績　・・・　11

【2】秋田ワークセンター相談支援事業の実績　・・・　23

【3】コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム事業の実績　・・・　26

令和２年度 事業報告書

Ⅰ　概　況

法人の運営においては、社会福祉法人として地域福祉の推進に努めるため社会福祉事業や県等からの委託事業を効果的かつ適正に執行するため、正副会長会議や評議員会、理事会、評議員選任・解任委員会などの諸会議を新型コロナウィルス等感染症予防のためのみなし開催による書面決議を含めて、適時適切に開催した。

事業の実施では、県等からの委託事業を実施するにあたり、感染症の拡大に十分留意しながら、行政や関係団体等と連携を図りながら、福祉ニーズに適切に対応し、かつ最小の経費で最大の成果を挙げるよう取り組んだ結果、各事業ともに概ね所期の目的を達成することができた。

県からの委託事業として実施２年目となる「小中学生向け障害理解教室」では、障害のある方々が講師として昨年度を５校上回る１６校の小学校に出向き、車いす乗車体験や盲導犬とのふれあい体験、見えない世界を肌で感じる体験や点字等を学ぶことによって、昨年度比６６５名増の１，２０２名の児童に対して障害の特性や障害者への理解を一層深める機会を提供することができた。

「サービス管理責任者等研修」では、受講者や講師等関係者の感染症対策として、手指の消毒や検温をはじめマスクやフェイスシールドの着用、ソーシャルディスタンスの確保やパーティションの設置、更には、研修会場の密を避けるため、受講者の人数を例年より減らすなどの措置を講ずることによって、予定したカリキュラムを全て実施することができた。

「第２０回心いきいき芸術・文化祭開催事業」は、昨年度まで秋田拠点センターアルヴェ（秋田市）で開催してきたが、感染症対策のため参加者の安全面を考慮し、全体的に規模を縮小しながらも歌手公演のリモートでの実施や、秋田県障害者芸術福祉展における展示作品のバーチャルツアー形式によるインターネット公開により、作品展終了後いつでも作品を鑑賞することができるようにした。

文化庁等が主催する「ジャパン・ライブエール・プロジェクト in あきた」の一環として秋田拠点センターアルヴェで実施することにしていた「あきた心いきいきアート展」は、県内での新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、観覧者を迎えての開催は困難であると判断し開催直前に中止としたが、展示を予定していた秋田県障害者芸術福祉展で過去に秋田県知事賞などを受賞している方々の作品や、会場で上映を予定していた身体・知的・精神の障害のある方３名の作品の制作風景や本人インタビュー映像を当法人ホームページで常時公開するなど、障害のある方々の芸術作品の素晴らしさを広く県民に周知することができた。

[組織運営の実績]

１　正副会長会議

（１）第1回

- 期　日　6月１１日（木）
- 場　所　県心身障害者総合福祉センター
- 出席者　会長、副会長３名、常務理事、所長
- 協議事項（理事会及び評議員会への提出議題の審査）
  - ①顧問の同意について
  - ②理事の選任（案）について
  - ③評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について

④障害者支援施設秋田ワークセンター運営規程一部改正（案）について
⑤障害者支援施設秋田ワークセンター相談支援事業運営規程一部改正（案）について
⑥令和元年度事業実績について
⑦令和元年度収支決算について
⑧社会福祉充実計画について
⑨令和２年度第１回評議員会の招集について
⑩その他
令和２年度秋田県身体障害者福祉協会会長表彰候補者の審査について

（2）第2回
・期　日　１２月２１日（月）
・場　所　県社会福祉会館
・出席者　会長、副会長１名、常務理事、所長
・協議事項（第２回理事会提案議題及び報告事項について）
①職員給与規程等一部改正（案）について
②令和２年度職務執行状況について
③資金運用状況について
④秋田ワークセンター創立３０周年記念式典について
⑤令和２年度社会福祉法人等指導監査の結果について
⑥その他

（3）第3回
・期　日　令和３年３月１５日（月）
・場　所　県心身障害者総合福祉センター
・出席者　会長、副会長２名、常務理事、所長
・協議事項（令和２年度第３回理事会提案議題等について）
①職員給与規程一部改正（案）について
②組織規程等一部改正（案）について
③令和２年度資金収支第１次補正予算（案）について
④令和３年度事業計画（案）について
⑤令和３年度資金収支予算（案）について
⑥その他

2　評議員会

（1）第1回（書面決議）
・決議日　６月２９日（月）
・同意評議員１８名
・非同意評議員０名
・議題
①理事の選任（案）について
②令和元年度事業実績について

③令和元年度収支決算について
④社会福祉充実計画について

3　理事会
（1）第1回（書面決議）
・書面による決議
・決議日　６月１５日（月）
・同意理事８名
・非同意理事０名
・議題
①顧問選任の同意について
②評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について
③障害者支援施設秋田ワークセンター運営規程一部改正（案）について
④障害者支援施設秋田ワークセンター相談支援事業運営規程一部改正（案）について
⑤令和元年度事業実績について
⑥令和元年度収支決算について
⑦社会福祉充実計画について
⑧令和２年度第１回評議員会の招集について
（2）第2回
・期　日　１２月２１日（月）
・場　所　県社会福祉会館
・出席者　理事７名、監事２名
・欠席者　理事２名
・議題
①職員給与規程等一部改正（案）について
・報告事項
①令和２年度職務執行状況について
②資金運用状況について
③秋田ワークセンター創立３０周年記念式典について
④令和２年度社会福祉法人等指導監査の結果について
（3）第3回（書面決議）
・決議日　令和３年３月１９日（金）
・同意理事９名
・非同意理事０名
・議題
①職員給与規程一部改正（案）について
②組織規程等一部改正（案）について
③令和２年度資金収支第１次補正予算（案）について
④令和３年度事業計画（案）について

⑤令和３年度資金収支予算（案）について

4　監　査　　令和元年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況等の監査

（1）秋田ワークセンター

・期　日　６月２日（火）

・場　所　会議室

・出席者　監事２名、常務理事、所長

・内　容

①職員紹介

②施設見学

③事業実績報告概要説明

④収支決算概要説明

⑤昨年度監査講評への対応

⑥監査

（2）法人本部事務局

・期　日　６月３日（水）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・出席者　監事２名、会長、常務理事、所長

・内　容

①職員紹介

②事業実績報告概要説明

③収支決算概要説明

④監査

⑤講評

⑥会長あいさつ

5　評議員選任・解任委員会

（1）第1回

・期　日　６月１７日（水）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・出席者　委員３名、会長、常務理事

・議題

①評議員の選任（案）について

[事業の実績]

【1】（重点目標１）・障害者支援施設秋田ワークセンターの運営・管理
（１１頁記載）

・秋田ワークセンター相談支援事業所の運営・管理
（２３頁記載）

・コミュニティライフサポート谷内佐渡ホームの運営・管理
（２６頁記載）

【2】（重点目標２）・障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進

１　自立更生の環境づくり

（1）障害者地域生活支援事業

障害者の自立更生の環境づくりのため、関係団体が自主的な事業に取り組むための助成金を交付するなど、その円滑な事業推進を図った。

①オストメイト社会適応訓練事業

日本オストミー協会秋田県支部が県内５地区において、装具、器具の使用法と選択法やストマクリニックや社会生活上の基本的事項に関する相談、情報交換等を感染症に配慮のうえ実施した。

・実施地区　由利本荘市、大仙市、横手市、大館市、秋田市

・参加者数　８９人

②音声機能障害者発声訓練事業

喉頭摘出者福祉団体「秋笛会」が県内３地区において、食道発声訓練、各種相談、人工喉頭又は電気発声機による発声訓練等を実施する訓練会を感染症に配慮のうえ実施した。

・実施地区　秋田市、横手市、能代市

・参加者数　１３０人

③筋ジス者機能訓練事業

秋田県筋ジスの会が、筋ジストロフィー者に対して、社会生活上必要な知識の習得や情報交換等の場として、検診、医療講話や医療相談を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策としてイベントを中止した。

④車いす使用者のためのレクリエーション事業

秋田県車いす連合会において、運動会、ゲートボール大会、文化交流会の開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染防止のため、今年度は、車いす利用者を対象に、障害者差別解消に関するビデオ「私たちにできること」を活用した勉強会を開催した。

・実施地区　秋田市

・参加者数　１５人

（2）小中学生を対象とした出前講座や体験教室等の実施

障害のある方などが講師として県内の小中学校に出向いて講話や障害疑似体験などを行うことで、児童・生徒と障害者の交流を図るとともに、障害及び障害者への理解を深め、心のバリアフリーの推進につなげることを目的として「小中学生向け障害理解教室」を実施した。

・実施学校数　１６校（延べ１７回開催）

・参加生徒数　１，２０２人（令和元年度実施１１校、５３７人）

・内　訳

実施日	学校名	講座名	参加生徒数
６月２４日	秋田市立御所野小学校	車いす体験教室	１０９
７月　１日	秋田市立築山小学校	盲導犬を知ろう	７６
	秋田市立高清水小学校	見えない世界を見てみよう	５０
７月１５日	秋田市立日新小学校	盲導犬を知ろう	１３２
９月　８日	秋田市立東小学校	盲導犬を知ろう	７７
	秋田市立保戸野小学校	点字を学ぼう	３６
９月　９日	秋田市立上北手小学校	車いす体験教室	４５
９月１１日	にかほ市立院内小学校	盲導犬を知ろう	２０

９月１８日	秋田市立飯島南小学校	盲導犬を知ろう	５８
９月２３日	秋田市立八橋小学校	盲導犬を知ろう	６８
９月２４日	由利本荘市立新山小学校	点字を学ぼう	８７
９月２５日	秋田市立飯島小学校	車いす体験教室	７５
９月３０日	由利本荘市立新山小学校	点字を学ぼう	５６
１０月１９日	秋田市立桜小学校	盲導犬を知ろう	１５０
１１月　４日	秋田市立寺内小学校	盲導犬を知ろう	５６
１１月　６日	由利本荘市立大内小学校	車いす体験教室	１６
１１月２５日	秋田市立仁井田小学校	見えない世界を見てみよう	９１

（３）車いす使用者等への理解・啓発事業

車いす使用者等への理解と啓発を図るため、車いす使用者が講師として県内の小学校６校において感染症に配慮のうえ講座等を行うとともに、作成したパンフレットやリーフレットを配布することで障害に対する理解を深めた。

・実施学校数　６校

・参加生徒数　４４２人

・内　訳

実施日	学校名	講座名	参加生徒数
１０月　７日	横手市立旭小学校	車いす者支援講座	６３
１０月１６日	横手市立朝倉小学校	車いす者支援講座	５７
１０月２０日	横手市立横手北小学校	車いす者支援講座	７１
１０月２６日	横手市立横手南小学校	車いす者支援講座	１８０
１１月　２日	秋田市立土崎小学校	バリアフリー教室	３２
１１月２５日	秋田市立四ツ小屋小学校	バリアフリー教室	３９

２　社会参加の促進

（１）身体障害者更生相談事業

身体障害者の更生のために必要な各種相談に応じ、適切な指導、助言を行うことで、身体障害者福祉の増進を図った。

・相談件数３７件

（２）身体障害者ジパング倶楽部への加入受付

日本身体障害者団体連合会と連携し、ＪＲ東日本の協力のもと、身体障害者の運賃割引特典のあるジパング倶楽部の身体障害者向け特別会員の受付業務を行った。

・入会件数　新規　２件　、更新　７２件

（３）秋田県障害者スポーツ協会が実施する事業への協力

職員派遣等により協力をする予定としていた第１８回秋田県障害者スポーツ大会及び第２０回全国障害者スポーツ大会が、感染症予防のため中止となった。

【３】（重点目標３）・市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化

１　秋田県身体障害者福祉大会開催事業

７月１４日（火）秋田市の秋田県立武道館において開催を予定していた社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会設立３０周年記念大会は、市町村協会会員や来賓、ボランティアなどの新型コロナウイルス感染症への安全対策を考慮して開催を中止した。なお、この大会において表彰されることになっていた方々を

対象とした「令和２年度秋田県身体障害者自立更生等表彰式」を次のとおり開催し表彰状を授与した。
・期　日　１０月２９日（木）
・場　所　秋田県庁「正庁」
・表彰の内訳
（1）秋田県知事表彰１５名（自立更生2名、団体育成１３名）
（2）日本身体障害者団体連合会会長表彰１名
（3）秋田県身体障害者福祉協会会長表彰２１名（自立更生１４名、団体育成7名）
（4）出席者
①知事表彰受賞者等２１名
②来賓
秋田県議会議長、秋田県議会福祉環境委員長
③主催者
秋田県副知事、秋田県健康福祉部長、秋田県健康福祉部社会福祉監、秋田県健康福祉部次長、秋田県健康福祉部障害福祉課長、秋田県身体障害者福祉協会会長、秋田県身体障害者福祉協会副会長、秋田県身体障害者福祉協会常務理事他

２　市町村身体障害者協会長・事務担当者会議

各市町村身障協会の活動事例の情報交換等を行うなど、各団体の活動の活性化に向けた取組みの重要性について相互理解を深めるため、６月に県内３地区においての開催を予定していたが、参加者の新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

３　障害者のための軽スポーツレクリエーション大会開催事業

従来から実施してきた「卓球バレー」と「フライングディスク」を新型コロナウイルス感染症予防を考慮して取りやめ、実施競技を「ボッチャ競技体験会」として次のとおり開催した。
・期　日　　１０月１０日（土）
・会　場　　秋田県社会福祉会館
・内　容　　ボッチャ体験会の開催
・参加市町村
秋田市、横手市、大館市、男鹿市、由利本荘市、にかほ市、藤里町、八峰町
・参加者数
９６名（選手６４名、審判１１名、引率１５名、手話通訳1名、事務局５名）

４　会報「身障秋田」の発行

当協会の事業活動や予算・決算を掲載した会報「身障秋田」を作成して市町村協会会員等に配布することにより、当協会の活動内容を広く周知した。
・発行月　　令和３年1月
・発行部数　３，６００部

5　法人ホームページのリニューアル

障害者情報ネットワーク「ノーマネット」を活用し、身体・知的・精神の障害のある方々に関する各種情報を提供している当法人のホームページについて、新たに市町村協会の会員確保に向けた青年層への呼び掛け強化を図るため、スマートフォンやタブレットなどにも対応したホームページにリニューアルし、７月上旬からインターネット上での公開を開始することによって、引き続き障害者福祉に関する各種情報の提供や市町村協会の紹介などを行い市町村協会会員の確保に努めた。

・年間アクセス数　　６，６９０件

6　第６５回日本身体障害者福祉大会ひろしま大会の開催（中止）

ひろしま大会に合わせて現地での研修会を企画し、令和２年１月に市町村協会を通じて参加を呼び掛けたが、新型コロナウィルス感染症拡大予防のため、大会の開催が中止となった。

【4】（重点目標４）・研修開催による人材育成事業の推進

1　サービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）研修の実施

障害福祉事業所におけるサービスの質の確保と向上のため、関係法令等に基づくサービス管理責任者等の知識及び技術の向上等を目的に実施する研修であり、本年度は特に手指消毒や受付時の検温、マスクやフェイスシールドの着用、ソーシャルディスタンスの確保やパーティション設置など、新型コロナウイルス感染症対策に重点的に留意して実施した。

（1）更新研修の開催

・期　日　８月１９日～２０日

・場　所　県社会福祉会館１０階大会議室

・修了者数

①8月１９日　７０名

②8月２０日　６９名

（2）基礎研修の開催

①B日程（障害児）

・期　日　１０月１４日～１５日

・場　所　県社会福祉会館１０階大会議室

・修了者数　３３名

②A日程（障害者）

・期　日　１０月２２日～２３日

・場　所　県社会福祉会館１０階大会議室

・修了者数　６９名

（3）研修準備打合せ会の開催

①更新研修打合せ会

・期　日　７月３０日（木）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター会議室

・内　容　開催要領について、感染症への対応についてほか

・出席者　講師・ファシリテーター（助言者）１２名、事務局５名

②基礎研修打合せ会

・期　日　９月２８日（月）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター会議室

・内　容　開催要領について、感染症への対応についてほか

・出席者　講師・ファシリテーター（助言者）１５名、事務局５名

（4）国の指導者養成研修（リモート研修）への参加

・期　日　９月１５日〜９月１８日

・場　所　県庁会議室

・参加人員　７名

【5】（重点目標５）・３障害（身体・知的・精神）を統合した事業の推進

１　芸術・文化講座開催等事業

第２０回心いきいき芸術・文化祭を昨年まで秋田拠点センターアルヴェで２日間開催してきたが、県と協議し、新型コロナウイルス感染症対策のため参加者の安全面を考慮し、会場を変更するなど規模を縮小して次のとおり開催した。

（1）第２０回心いきいき芸術・文化祭の開催

・期　日　１１月１９日（木）〜２１日（土）

・場　所　にぎわい交流館ＡＵ（あう）

・内　容

①オープニング「ＶＴＲによる実行委員長あいさつ」

②公演「ＮＨＫ紅白歌合戦出場歌手の木山裕策氏によるリモート出演」

③講演「講師：株式会社ヘラルボニー　丹野晋太郎氏　テーマ「福祉×アートから経済圏をつくる」」

④障害者芸術福祉展「出品作品数２６９点　展示終了後に３６０度カメラで撮影したバーチャルツアー形式の映像を協会ホームページで紹介（常時公開中）」

⑤製品販売「延べ２０の障害福祉事業所が参加、手工芸品や加工食品などを販売」

⑥表彰式「障害者芸術福祉展秋田県知事賞の授与」

⑦来場者　約１，０３０人

（2）実行委員会等の開催

①第１回実行委員会

・期　日　８月２４日（月）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・内　容　役員選出、予算について、開催要綱（案）についてほか

・出席者　委員１２名、事務局５名

②第１回セレモニー・講演・パフォーマンスステージ小委員会

・期　日　８月２４日（月）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・内　容　各セレモニー次第の決定、講演出演者の決定ほか

・出席者　委員５名、事務局３名

③第１回障害者芸術福祉展・製品販売小委員会

・期　日　８月２４日（月）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・内　容　作品募集要項・審査要領の決定、製品販売参加団体募集要項の決定ほか

・出席者　委員６名、事務局２名

④第２回実行委員会

・期　日　９月３０日（水）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・内　容　県との協議による開催要綱案の大幅改正の内容確認と検討ほか

・出席者　委員１４名、事務局５名

⑤第３回実行委員会

・期　日　１１月９日（月）

・場　所　県心身障害者総合福祉センター

・内　容　オープニングセレモニーについて、障害者芸術福祉展表彰式について
講演・公演について、期間中の役割分担についてほか

・出席者　委員１３名、事務局５名

（3）「あきた心いきいきアート展」の開催

①趣旨

新型コロナウィルス感染症拡大の影響で日頃の成果を発表する機会を失ってしまった地域の文化団体・芸術家・アマチュアを含む芸術団体が存在する一方で、お子さんや障害のある方の文化体験や発表の場も失われており、こうした現状を踏まえ、障害のある方の芸術作品や創作活動を紹介するために文化庁等が主催する「ジャパン・ライブエール・プロジェクト in あきた」のイベントの一つとして「あきた心いきいきアート展」を開催し、多くの県民に障害のある方のアート創造活動についての理解を深めることを目指したが、県内での新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、観覧者を受け入れての開催は困難であると判断し中止とした。

なお、展示を予定していた秋田県障害者芸術福祉展で過去に秋田県知事賞などを受賞している方々の優秀作品や、会場で上映を予定していた身体・知的・精神の障害のある方３名の作品制作風景や本人へのインタビュー映像を２月上旬から当法人ホームページで公開を開始した。

②主催

文化庁、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、「ジャパン・ライブエール・プロジェクト in あきた」実行委員会

③内容

障害者芸術福祉展で過去に秋田県知事賞などを受賞している方の作品５５点、また、障害のある方の芸術創作活動に対する県民の理解がより深まるよう、身体・私的・精神の障害のある方、各１名づつ計３名について、作品の制作風景や本人へのインタビュー映像を収録し、それぞれ当法人ホームページで公開を開始した。

④実行委員会への出席

第１回実行委員会

・期　日　８月２１日（金）

・場　所　秋田商工会館
・出席者　事務局長

第２回実行委員会
・期　日　１１月２６日（木）
・場　所　秋田商工会館
・出席者　事務局長

第３回実行委員会
・期　日　３月３１日（水）
・場　所　秋田商工会館
・出席者　事務局長

２　専門相談機関設置事業（障害者１１０番）

障害に関する全般的な相談を行うとともに、障害を理由とする差別に関する相談に対応するための常設の相談窓口を設置、また、毎月第３火曜日に弁護士による専門相談を行ったほか、県及び市町村の相談窓口への支援等を行った。

・相談件数　９２件（うち、弁護士相談５件、差別に関する相談０件）

Ⅱ　事業別の概要

【1】障害者支援施設秋田ワークセンター事業の実績

１　総　　括

今年度の利用者参加行事は、新型コロナウイルス感染症により施設内で行われるものは縮小して外部からの招待者等を断り、外出を伴う行事は中止を余儀なくされた。その中で「秋田ワークセンター３０周年記念行事」については、利用者の方などからの要望もあり、関係者のみで施設内を会場に開催することが出来た。

コロナ禍の中で、施設内での日常生活は大きな影響を受け、感染対策に苦慮する日々が続いたが、当施設利用者や職員からの感染者や濃厚接触者は出ておらず、引き続き最大限の危機感を持って感染対策を実施する必要があると考えている。

就労支援事業では、官公需による受注が多少増加傾向にあるが、それ以外の一般客からの受注が昨年度比で約１８％減少した。また、生産用機械や器具の消耗により、機器の整備・修繕や更新を計画的に取り組んだところである。

新たな利用者の確保につなげるため、秋田市役所や市内の病院の相談室などへの訪問を行い、施設入所者が１２月以降増加したが、大幅な収支のバランスを改善するまでには至っていない。

また、着実に進んでいる入所利用者の高齢化と障害の重度化やこれに伴う重複障害に対応するため、夜間の支援職員を増員して利用者の支援体制の充実に努めた。併せて、施設入所支援と生活介護事業、就労支援事業における利用者増への広報活動とともに手厚い支援の充実と魅力ある施設づくりに努めているところである。

令和２年度の事業実績は次のとおりである。

2　各種事業の定員及び現員の状況　（令和３年３月31日現在）

施設入所支援事業　利用定員　48名　／　現　員　46名（男性31名、女性15名）

生活介護支援事業　利用定員　40名　／　現　員　40名（男性27名、女性13名）

就労継続A型事業　利用定員　10名　／　現　員　7名（男性　7名、女性 0名）

就労継続B型事業　利用定員　30名　／　現　員　34名（男性 26名、女性 8名）

3　職員配置の状況　（令和３年３月31日現在）

職　種	職員数		担　当　業　務
	令和２年度	令和元年度	
所　長	1	1	所内の総括、苦情解決責任者、会計責任者
サービス管理責任者	2	2	利用者の個別支援計画、アセスメント、利用計画原案、モニタリング等相談業務及び記録等の確認（生活介護・施設入所支援事業１名、就労支援事業１名）
事　務　員	3(2)	3(2)	サービス区分の予算・決算の事務処理及び金銭の出納 利用者利用料の請求・精算業務等、職員の給与、福利厚生業務、利用者支援等
生活支援員	15(9)	12(10)	生活介護支援及び日常生活支援、相談業務
就労支援員	5(2)	9(4)	作業支援及び指導、製品管理、営業販売、相談業務
看　護　師	2	2	利用者及び職員の健康管理
栄　養　士	2(1)	2(1)	利用者の給食献立、利用者の栄養管理
調　理　員	3(3)	3(3)	給食業務
嘱　託　医	1(1)	1(1)	利用者の検診、医務相談
そ　の　他	4(4)	4(4)	給食業務補助
合　計	38(22)	39(21)	

※（再掲）は嘱託職員・非常勤職員及びパート職員数

4　事業の実施状況

（1）施設入所支援事業

コロナ禍の中で、施設内の換気や消毒、利用者の体調確認等感染防止対策に努めた。また、７月から夜勤２名体制とし、利用者がより安全かつ安心して生活できるように支援の充実に努めた。個別支援計画では、利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを充足するため関係者で話し合いを行い個別支援の充実を図った。

また、利用者の身辺自立を妨げないよう考慮した施設設備の改善を進めるとともに、夜勤者及び日勤者が起床・就寝時、朝・夕の食事前後、土日・祭日及び緊急時における様々なニーズに対応するため、職員間の情報共有を進めるなど切れ目のない支援の充実に努めた。

更に職員のチーム化や支援動作の検証を行いマニュアル化して職員個々の無駄な動きや重複支援を省くなど、効果的な支援の実施やリスク軽減のための支援体制の整備を行った。また、日々の健康管理、食事・排せつ支援や生活相談を行うとともに利用者の満足度調査を実施するなど充足感を感じられるサービス提供に努めた。

（2）生活介護支援事業

新型コロナ感染防止の為、利用者の日中活動なども入所利用者と通所利用者を分けて実施する必要があり、これまで一緒に行って来たレクリエーション等も思うように実施出来なかった。利用者の多様なニーズに応える為、食事や入浴、排せつの介護、生活情報の提供など、日常生活における個人支

援プログラムに沿ったサービス提供に努めた。

更に、身体の機能維持や健康の保持、増進のために理学療法士による機能訓練計画を立て、計画に沿った訓練を実施し、通院・受診及び服薬支援のサービス提供を行った。

食生活の充実のため、配膳や下膳はもちろんのこと、個人に合った福祉用具を準備し、年齢とともに低下する噛む力や飲み込む力の予防のため、お口の体操をほぼ毎日行い支援の充実に努めた。

新型コロナ感染の影響もあり、これまで利用者が楽しみにして行って来た行事も縮小や中止せざるを得なかった。

（3）就労支援事業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、町内会や企業・団体の各種イベントが中止や延期となり、総会資料等やパンフレット等の注文が減少し、就労支援事業の売り上げ確保が厳しい状況となった。下半期にかけ受注は幾分回復傾向にあったが、売上目標５，８００万円に対し実績は５，３８７万円と今年度の目標は達成できなかった。しかし、年々、機械設備の老朽化もあり修繕にかかる費用も増えるなど経費節減にも限界があるのが実情である。

利用者の工賃の総支給額は１７，７２７千円であった。

①就労継続A型事業

印刷事業は一般企業からの受注が大半を占めている。障害者優先調達推進法による県や市、労働局、高齢障害求職者雇用支援機構等の官公需の随意契約による受注が若干ではあるが増えてきている。

年賀はがきの印刷は、例年通り既存の顧客に対してダイレクトメールを発送し、受注の確保に努めてきたが、顧客の高齢化や若者の年賀状離れにより受注件数、受注枚数は年々減少してきている。

営業面に於いても、当施設の福祉事業に理解のある企業関係や学校、保育所、地区社協等へ会報作成等の印刷発注情報の収集のための活動を行っているが、他事業所との競争も厳しく売上の増加には結びつかない現状がある。また、新型コロナの感染拡大により各種イベントの中止や延期となり営業活動に支障をきたすこともあったが、障害者優先調達推進法や他事業所との共同受注といった制度を活用し受注先開拓に結びつく活動を継続していくこととしている。

リサイクル作業は、取引企業や福祉施設、古紙ステーションを利用しての地域住民等から安定した回収作業ができるようになったが、全体として回収量は横ばい状態である、しかし買取り金額の下落が続くなど厳しい状況が続いている。

②就労継続B型事業

軍手の受注数は、減少傾向にあり売り上げは減少している。原材料費の値上げが続いていることに加え、軍手編み機の老朽化に伴い修繕が必要な機械が多いが、品質の安定を図り質の高い製品作りを行う為、随時、設備の点検整備を実施している。

古布のリサイクル等のウエス作業は受注件数、収益とも減少傾向にある。営業活動も継続しているが、新規開拓・受注へはなかなか繋がっていない。材料確保は時期により困難な場合もあるが、情報収集に努めながら納期に遅延が生じることのないように取り組んでいる。

清掃作業は、施設内の清掃を受託し、現在５名が従事しており、安定した収入源となっており、また、入所利用者の快適な環境づくりにも大きく貢献している。

受託作業として銅線の皮むき作業は、比較的多くの利用者が出来る作業として毎月１トンを目

標として取り組んでいる。

5　施設の整備状況

① 利用者の居住環境改善整備（エアコン設置）

東棟10室に設置し、残り西棟16室は令和３年度夏までに設置予定である。

② 多機能型簡易居室整備

県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金を活用し、感染者隔離用の多機能型簡易居室(プレハブ)を設置した。

③ リモートワーク環境整備

新型コロナウイルス感染症対策のため遠隔での職員研修や会議への参加や利用者が通院せずに担当医と遠隔診療ができるように、リモートワーク環境整備支援事業補助金を活用しパソコン等必要な機器を整備した。

6　機器の購入及び設備の整備状況

（1）施設全般

① 施設内床タイルの補修工事

年数経過による補修

② 浄化槽の清掃とポンプの交換工事

年数経過による交換

③ タブレット型体温測定カメラの設置

新型コロナウイルス感染症対策のため、常時、自動検温により異常体温者早期発見に活用できるよう玄関に設置した。

（2）生活介護支援事業

① ナースコールシステムの増設（多機能型簡易居室）

② 徘徊感知センサー購入

③ 全自動洗濯機購入

（3）就労継続支援事業

① 軍手・ウエス事業　軍手編み機購入

② 印刷事業　エッチングプロセッサー購入

7　給食提供の状況

（1）行事食・選択食の実施

四季折々の日本の食文化や斬新なアイディアを盛り込んだメニューや満足感や幸福感など心理的な面も大切にしながら、楽しい豊かな食事提供を目指して年１５回の行事食と９回の選択食を実施した。

（2）利用者の健康づくり

年４回の食事摂取量調査や身体・健康状況に関するデータを支援員、看護師などの専門職と共有して連携をはかり個別の栄養ケア・マネジメントの作成により、健康的な身体機能の維持増進のために栄養と健康の管理に努めた。生活習慣病の重篤化と合併症予防のため、栄養バランスと減塩を重視したメニュー提供と食事指導を実施した。

（3）福祉弁当

下北手地区社会福祉協議会から委託を受けて、地域の独居老人に対して月１回（6月～９月の夏季間は中止）年間７１食の福祉弁当を提供した。

8　健康管理の状況

（1）定期健康診断、定期診察等

健康管理のために年２回の定期健康診断、月１回の嘱託医の診察、月１回の体重測定、週１～２回の血圧測定などの定期健診の充実を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めた。

また、利用者のほとんどの方が何らかの疾病を抱え治療中であるため、定期通院、内服管理の徹底に努めた。

（2）インフルエンザ予防

インフルエンザ予防のために、予防接種料金を一部施設負担で希望者（利用者６６名、職員３７名）に行った。（罹患者なし）

（3）ノロウイルス等感染症予防

所内での感染を防ぐために、施設内の消毒や普段の手洗い・うがいを励行し、朝の会やポスターの掲示等を通じて清潔感の助長に努めるとともに、所内研修において発生時の対応についての手順、注意事項を確認した。（罹患者なし）

（4）機能訓練の実施

平日の月曜日から金曜日の、午後１時半から午後３時まで、理学療法士の作成した個別プログラムに添った機能訓練を実施し、身体機能の保持増進を図った。

また、平日の１１時２０分から１１時４０分（昼食前）に「お口の体操」を行い、口腔機能の低下防止に努めた。

（5）新型コロナウイルス感染症予防

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて厚生労働省や県・市からの通知や研修会を基に対応マニュアルを作成し感染予防対策の徹底を図るとともに、感染者が発生した場合の緊急時対応などについて訓練を行った。（罹患者なし）

9　衛生管理の状況

（1）寝具類・シーツ交換

寝具類（枕、掛布団・肌掛、ベットパット等）の交換を年１回、シーツ・カバー類（シーツ）掛布団カバー・肌掛カバー）は毎週１回交換し寝具類の清潔に努めた。

（2）居室、浴室等の清掃

利用者の居室清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃）を週１回以上行った。居室や共通部分である浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃及びワックスがけを行い、衛生管理に努めた。

（3）入浴

一般入浴を月・木曜日の午後１時から午後４時まで行い、７月～９月の期間は水曜日もシャワー浴を行った。

特浴及び支援入浴は火・金曜日に行い、女子は午前９時３０分から午前１２時まで、男子は午後１

時３０分から午後４時までとして順番を決めて混雑がなくゆっくりと入浴をして頂いた。その他、入浴の出来ない利用者には清拭等も行いながら、身体の衛生保持に努めた。

10　災害事故防止等訓練の状況

（１）重度障害者への防災上の配慮

①同室者（２人部屋）への配慮として、できるだけ歩行の困難な人同士や聴覚障害者同士等の組み合わせにならないよう配慮してやむを得ず同室にする場合は、緊急呼出ベルの設置や隣室者からの協力や職員への通報を密にするなどの対応を行った。

②障害の程度に対応した避難路の確保に努め、歩行の困難な人や目の不自由な人等は避難口に近い居室にするなどの配慮を行った。

③予備の車椅子を設置してすぐに使用できるようにした。

④浴室・脱衣室から容易に避難できるよう介護用布担架を常備している。

（２）事故や災害防止と安全のために

①防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

②避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間（想定）も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難の消火器操作訓練等）や、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

自家発電機からコンセントまでの電線の整備を行っており、常にナースコール対応ができる等、停電時の電源の確保に努めた。

11　就労支援事業の研修

事業名	研修日
就労Ａ・Ｂ型事業利用者・家族会合同研修	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

12　就労支援事業の推移

（１）事業収入額の推移　（単位：円）

年度＼事業	就労移行支援（内部加工）	就労継続支援A型（雇用型）	就労継続支援B型（非雇用型）	年度総計
平成28年度	89,300	43,829,004	19,345,495	63,263,799
平成29年度	101,002	42,248,135	20,278,509	62,627,646
平成30年度	0	46,246,214	20,825,252	67,071,466
令和元年度	0	49,158,665	14,350,632	63,509,297
令和２年度	0	40,123,467	13,755,704	53,879,171

（２）工賃支給実績額の推移　（単位：円）

年度＼事業	就労移行	就労継続支援A型	就労継続支援Ｂ型	年度総計
平成28年度	89,300	13,233,154	5,795,050	19,117,504
平成29年度	88,850	13,602,256	3,597,700	17,288,806
平成30年度	0	12,183,983	5,908,490	18,092,473

令和元年度	0	12,291,748	5,146,910	17,438,658
令和２年度	0	12,658,061	5,069,000	17,727,061

13　利用者の状況

① 市町村別の入所、生活介護利用者数　（名）

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
秋田市	19	12	31	16	11	27
男鹿市	2	1	3	2	1	3
横手市	0	1	1	0	0	0
大仙市	4	0	4	4	0	4
能代市	2	0	2	2	0	2
北秋田市	1	0	1	0	0	0
潟上市	1	0	1	1	0	1
小坂町	1	0	1	1	0	1
三種町	1	1	2	1	1	2
合計	31	15	46	27	13	40

② 年齢別、性別の状況　（名）

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
20 歳未満	0	0	0	0	0	1
20～29	1	1	2	0	1	1
30～39	0	0	0	2	0	2
40～49	3	3	6	2	2	4
50～59	3	4	7	2	3	5
60～69	13	5	18	12	5	17
70 歳以上	11	2	13	9	2	11
合計	31	15	46	27	13	40
平均年齢	63 歳	57 歳	61 歳	63 歳	58 歳	61 歳

③ 入所、生活介護利用者の在所期間の状況　（名）

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
1 年未満	4	2	6	4	1	5
1 年以上～3 年未満	2	2	4	2	2	4
3 年以上～5 年未満	3	1	4	2	1	3
5 年以上～10 年未満	3	3	6	2	2	4
10 年以上～15 年未満	5	1	5	5	2	7
15 年以上	15	6	21	12	5	17
合計	31	15	46	27	13	40

④ 入所、生活介護利用者の障害程度区分の状況　（名）

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
区分１	0	0	0	0	0	0
区分２	4	1	5	4	1	5

区分3	12	5	17	12	5	17
区分4	10	4	14	10	4	14
区分5	5	5	10	5	5	10
区分6	0	0	0	1	0	0
非該当	0	0	0	0	0	0
合計	31	15	46	27	13	40

⑤ 新入所、生活介護利用者数とその経路 (名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
施設	0	2	2	0	1	1
自宅	3	0	3	4	0	4
病院	3	0	3	3	0	3
その他	0	0	0	0	1	1
合計	6	2	8	7	2	9

⑥ 退所利用者数と退所理由 (名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
自宅（家庭復帰）	1	0	1	2	0	2
他施設	0	0	0	1	1	2
通所から入所	0	0	0	1	0	1
病院	3	0	3	2	0	2
グループホーム	2	0	2	1	0	1
合計	6	0	6	7	1	8

（2）就労支援事業　（　）内の数字は施設入所者

①市町村別利用者数 (名)

区　分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
秋田市	7	0	7	22(5)	6(2)	28(7)	35(7)
男鹿市	0	0	0	1	0	1	1
横手市	0	0	0	0	2(1)	2(1)	2(1)
能代市	0	0	0	2	0	2	2(0)
北秋田市	0	0	0	1(1)	0	1(1)	1(1)
合　計	7	0	7	26(6)	8(3)	34(9)	41(9)

② 年齢別、性別の状況 (名)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
20～29	0	0	0	8(1)	2(1)	8(2)	8(2)
30～39	1	0	1	2	4	6	7
40～49	2	0	2	4(1)	1(1)	6(2)	7(2)
50～59	2	0	2	5(1)	1(1)	6(2)	8(2)
60～69	2	0	2	5(1)	0	5(1)	7(1)
70 歳以上	0	0	0	2(2)	0	1(2)	2(2)
合計	7	0	7	26(6)	8(3)	34(9)	41(9)

平均年齢	52 歳	0 歳	52 歳	45 歳	37 歳	43 歳	45 歳

③ 出身世帯の状況 （名）

区分	A型通所利用者			B型通所利用者		
	男	女	合計	男	女	合計
親が生存	4	0	4	18(3)	8(3)	26(6)
兄弟、姉妹世帯	1	0	1	6(2)	0	6(2)
配偶者の有	1	0	1	1(1)	0	1(1)
家庭消滅	1	0	1	1	1	1
合計	7	0	7	26(6)	8(3)	34(9)

④ 新利用者数とその経路 （名）

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
他の事業所	6	0	6	9	3	12	18
自宅	1	0	1	1	0	1	2
その他	0	0	0	16	5	21	21
合計	7	0	7	26	8	34	41

⑤ 障害支援区分の状況

A型通所利用者 （名）

支援区分	1	2	3	4	5	6	非該当	合計
利用者数	0	1	0	0	0	0	6	7

B型通所利用者 （名）

支援区分	1	2	3	4	5	6	非該当	合計
利用者数	1	3	8	3	1	0	7	23

⑥ 退所利用者数と退所理由 （名）

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
入所から通所へ移行	0	0	0	1	0	1	1
合計	0	0	0	1	0	1	1

（3）利用者の診察、処置等の状況 （名）

区分		施設医務室における処置		入院		通院	
		実人員	延処置日数	実人員	延日数	実人員	延日数
診療科目	内科系疾患	3	487	6	287	46	532
	外科系疾患	15	1,946	0	0	16	59
	精神科	0	0	2	25	13	66
	皮膚科	37	4,656	0	0	37	204
	眼科	11	1,608	0	0	23	40
	歯科	0	0	0	0	22	141
	耳鼻科	1	10	0	0	7	23
	泌尿器科	0	0	0	12	10	189
	その他	0	0	0	0	1	3
合計		67	8,707	8	312	175	1,257

（4）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRＳA）、結核、疥癬等感染症等の予防対策及び実施状況

予防対策	実施状況
①（MRＳA）：うがい、手洗いの励行。看護者の処置始めと終わりに手洗い消毒を徹底する。 高圧蒸気滅菌器により器具を消毒。 自動手指消毒器を設置。 ② 結核：１回/年、胸部レントゲン写真の撮影を実施。内科検診。 ③ 疥癬：清潔、センター周囲の環境整備。 ④ ノロウイルスによる感染性胃腸炎、病原性大腸菌0-157。 手洗い、うがい、身体の抵抗力を養う。異常の早期発見。自動手洗機、石鹸液の設置 ⑤ インフルエンザ：インフルエンザワクチン接種。	①紙コップ、ペーパータオルを置き、声かけをし、うがい、手洗いの励行に努めた。また、通院後、手指消毒器により消毒し、処置の始め、終わりにも消毒を実施した。 ②結核検診を１回／年、内科検診を２回／年実施した。 ③寝具類の清潔を図る。寝具の交換（年一回以上）、シーツ類等交換１回／週 ④安全な食事の提供。手洗いの徹底。体調不良者を早期にチェックする。 ⑤インフルエンザワクチンの接種。利用者６６名、職員３７名

（5）新型コロナウイルス感染症の予防対策及び実施状況

予防対策	実施状況
① 職員の対応	① マスクの着用、手洗い、うがいの徹底
② 出勤の有無について	② 出勤前、出勤時の検温。同居家族の体調観察
③ 利用者の通院について	③ マスクの着用、手洗い、うがいの徹底 電話診察、通院回数の調整
④ 私用の外出について	④ 不用不急の外出はしない。マスクの着用、手洗いうがいの徹底、外出後の検温、体調観察
⑤ 送迎支援について	⑤ 送迎車内の消毒
⑥ 入所利用者の検温、体調観察	⑥ 検温と聞き取りによる異常の早期発見
⑦ 施設内の感染防止対策	⑦ 換気と共有して接触する部分の消毒

（6）利用者の健康診断

期間	実施人員	調査項目	検査機関
6月3日 ～ 6月11日	7名 6名 2名	生活習慣病予防検査（A型利用者） 大腸ガン検査 胃検診	秋田赤十字病院 ふき検診クリニック ミチヒロ胃腸内科
6月3日 ～ 6月25日	35名 4名 18名 27名 41名 26名 36名	胸部X線検査（直接） 大腸がん（便潜血） 採血（貧血、肝機能） 心電図 視力検査 聴力検査 尿検査	中通リハビリ病院 ふき健診クリニック
8月20日 ～ 10月 8日	全員	内科検診、聴打診血圧測定、問診	鎌田循環器科・内科クリニック

令和３年 １月 28 日 ～ ３月 18 日	全員	内科検診、問診 血圧測定	鎌田循環器科・内科クリニック

14　職員の定期健康診断

期間	実施人員	実施職種	検査項目	検査機関
６月３日	14 名	35 歳以下の職員	胸部Ｘ線、尿、心電図、採血他 （労働安全衛生法 66 条に基づく検査）	ふき健診クリニック
５月 26 日 ～ 12 月 23 日	23 名	35 歳以上の職員	生活習慣病予防、大腸がん、胃検診、乳癌、子宮がん	秋田赤十字病院 附属あきた健康管理センター 市立秋田総合病院
５月 27 日 ～29 日	３名	20～38 歳偶数年齢女子職員	子宮がん	市立秋田総合病院
12 月５日～ １月 31 日	12 名	夜勤職員	血圧、問診、尿、身長、体重 聴力、心電図、採血	ふき健診クリニック

15　避難訓練の実施

月日	訓練の想定	訓練内容詳細
５月 27 日	災害時通報装置連絡網、 伝達訓練	全職員による災害時通報装置作動訓練、緊急連絡網伝達訓練
７月 16 日	日中火災想定訓練、 消火器操作訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、救急救護、非常放送
10 月 30 日	夜間火災想定訓練、 消火器操作訓練	全職員による非常通報、初期消火、避難誘導、救急救護、非常放送

16　社内研修の実施

実施日	実施内容	講師及び開設者	摘要
６月 24 日	急変時の判断、対応方法について ・救急車を要請する場合　・症状別対応 ・心肺蘇生法について	看護師土田・飯坂	参加者 13 名
７月８日	救急救命講習 ・e-ラーニング(応急手当ＷＥＢ講習) ・救急処置の手順 （心肺蘇生法と AED の使用手順)	城東消防署員１名	参加者７名 支援員、事務員、調理員
11 月 11 日 ～20 日	施設における感染予防対策 ・新型コロナウイルス感染症について ・感染症対策キットの装着・脱衣の手順等	看護師土田・飯坂	参加者 28 名
１月 13 日	障害者の権利擁護と虐待防止について（外部講師)	県社会福祉士会 会長　和田士郎氏	参加者 18 名

1月13日	職員新人研修	所長・課長	参加者1名
2月22日	障害者虐待防止・権利擁護研修 （伝達研修）	サビ管千田	参加者16名

17　社外研修の実施

月日	研修名・場所	参加者
7月8日	職場のメンタルヘルス～相談場面の具体的対応～ 秋田市　中央地区老人福祉総合エリア	相談支援専門員
7月11日	福祉施設従事者向け新型コロナウイルス感染症対策研修会 秋田市　秋田県社会福祉会館	看護師
7月27～29日	就労支援基礎研修 秋田市　ユースパル	就労支援員
8月20日	サービス管理責任者更新研修 秋田市　秋田県社会福祉会館	サービス管理責任者（生活）
8月24～25日	キャリアパス対応生涯研修（中堅職員コース） 秋田市　秋田県社会福祉会館	目標工賃達成指導員
9月12日	医療的ケア教員講習会 秋田市　秋田県教育会館	看護師
9月18日	サービス管理責任者指導者養成研修 秋田市　秋田地方総合庁舎	就労支援課長
9月30日	サービス管理責任者基礎研修（共通講義）（オンライン会議）	目標工賃達成指導員
10月5～6日	障害者職業生活相談員資格認定講習 潟上市　ポリテクノセンター秋田	就労支援員
10月8日	福祉施設・事業所のトラブル対応セミナー 秋田市　秋田県社会福祉会館	所長
10月21日	障害者工賃向上フェア（オンライン会議）	サービス管理責任者（就労）
10月22～23日	サービス管理責任者基礎研修（基礎研修） 秋田市　秋田県社会福祉会館	目標工賃達成指導員
10月26日	障害者理解促進研修会 秋田市　秋田県社会福祉会館	生活支援員
11月4日	食品衛生責任者養成講習会 秋田市　秋田市文化会館	管理栄養士
11月12日	外国人人材受入れセミナー 秋田市　メトロポリタン秋田	所長
11月6～7日 11月26～27日 11月29日	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修 秋田市　遊学舎　及び　（オンライン会議）	相談支援専門員
12月1日	調理技術研修 秋田市　秋田県社会福祉会館	管理栄養士 調理員

12月4日	成年後見制度利用促進実務研修会 　秋田市　秋田県生涯学習センター	相談員
12月2日	給与大臣NX年末調整セミナー 　（オンライン会議）	事務員
12月11日	リスクマネジメント研修 　秋田市　秋田県社会福祉会館	生活支援員
12月11日 1月21日 3月　1日	相談支援従事者現任研修 　秋田市　遊学舎	相談支援専門員
12月17日	施設給食担当職員研修 　秋田市　秋田県社会福祉会館	管理栄養士
1月6～7日	障害者虐待防止・権利擁護研修 　秋田市　秋田テルサ	サービス管理責任者(就労) 相談支援専門員
1月23～24日	小型車両系建設機械特別教育 　秋田市　太平建機教習センター　秋田コース	生活支援員
1月28～29日	施設等相談援助職員研修 　秋田市　秋田県社会福祉会館	相談支援専門員
2月3日	福祉サービスに関わる苦情解決研修会(上級編) 　秋田市　秋田県社会福祉会館	サービス管理責任者 (地域生活支援)
2月8日	精神障害者等の就労パスポートに係るセミナー 　潟上市　ポリテクセンター秋田	就労支援課長
2月17日	福祉・介護事業所採用力アップセミナー（オンライン会議）	所長
2月26日	地域生活支援研修会 　秋田市　にぎわい交流館AU	相談支援専門員
3月1日	相談支援従事者現任研修 　秋田市　遊学舎	相談支援専門員
3月11日	コミュニケーション向上研修 　秋田市　秋田県社会福祉会館	生活支援員
3月18日	説明力強化研修 　秋田市　秋田県社会福祉会館	生活支援員
3月18日	秋田県相談支援従事者ファシリテーター養成研修 　秋田市　にぎわい交流館AU	相談支援専門員
3月18日	高齢者施設等における感染やクラスター発生時の対応 （オンライン会議）	所長、看護師２名 総務管理課長

【2】秋田ワークセンター相談支援事業の実績

１　総　括

障害福祉サービス等を申請した利用者に対して、サービス等利用計画の作成およびモニタリングを行う計画相談を実施し、新規対応も増数している。対応人数は１４１件。当事者以外にも総合病院や基幹相談支援センター等からの連絡や相談が増えてきている。６月より相談支援専門員２名体制にしたことで更なる業務の効率化および質の高い継続性のある相談支援を実施した。また、特定事業所加算や要医療児者支援体制加算を新たに算定している。

秋田市における障害福祉のシステムづくりに関し、中核的な役割を担う「秋田市障がい者総合支援協議会相談支

援部会」や、障害者の地域移行を推進するために整備された「地域生活支援拠点の運営に関する作業部会」の委員として積極的に関わった。

令和２年度の事業実績は以下の通りである。

２　事業及び職員

（１）事　業　　指定特定相談支援事業（計画作成）

（２）職　員　　管理者　　　　　　１名　（常勤・兼務）

　　　　　　　　相談支援専門員　２名　（常勤・専任）

３　事業の内容

（１）サービス等利用計画の作成及び提出

（２）サービス等利用計画作成後の便宜の提供

（３）サービス等利用計画の変更

４　事業の主な対象者

（１）身体障害者

（２）知的障害者

５　月別件数

月	サービス等利用計画作成		モニタリング	
	身体	知的	身体	知的
４月	13	17	6	3
５月	0	5	22	10
６月	1	6	3	10
７月	2	1	6	3
８月	4	2	5	7
９月	2	2	27	22
10 月	3	3	8	6
11 月	1	0	19	6
12 月	5	8	8	3
１月	4	9	10	3
２月	6	3	9	
３月	4	3	27	7
計	45	56	153	87
総数	101（112）		240（178）	

（　）は前年度実績

6　会議・研修への参加

期間	内容	出席者
月1回(7月～2月)	障がい者総合支援協議会相談支援部会	相談支援専門員
7月8日	職場のメンタルヘルスカウンセリング研修 中央地区老人福祉総合エリア	相談支援専門員
10月23日	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修 社会福祉会館	相談支援専門員
11月6日～7日	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修　WEB研修	相談支援専門員
11月9日	秋田県障害者相談支援従事者現任研修 E-ラーニング	相談支援専門員
11月26日～27日	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修　遊学舎	相談支援専門員
11月29日	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修　WEB研修	相談支援専門員
12月4日	成年後見制度利用促進実務研修会 秋田県生涯学習センター	相談支援専門員
12月11日	秋田県障害者相談支援従事者現任研修　遊学舎	相談支援専門員
12月16日	第1回相談支援部会（地域生活支援拠点プロジェクト） 秋田市役所内センタース	相談支援専門員
1月6日～7日	令和2年度秋田県障害者虐待防止・権利擁護研修 秋田テルサ	相談支援専門員
1月21日	秋田県障害者相談支援従事者現任研修　遊学舎	相談支援専門員
1月28日～29日	令和2年度施設等相談職員研修　社会福祉会館	相談支援専門員
2月26日	第12回地域生活支援研修会　にぎわい交流館AU	相談支援専門員
3月1日	秋田県障害者相談支援従事者現任研修　遊学舎	相談支援専門員
3月18日	秋田県相談支援従事者及びサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者・ファシリテーター養成研修 にぎわい交流館AU	相談支援専門員

7　職員の定期健康診断

期間	実施人員	検査項目	検診機関
6月 3日	1	定期健康診断	ふき健診クリニック
9月23日	1	定期健康診断	健康管理センター

【3】コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム事業の実績

1　総　括

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員と利用者は手洗い、消毒、外出時等における手指の消毒の徹底等に全力で取り組み感染症対策に努めた。当ホーム利用者や職員等から感染者や濃厚接触者は発生しておらず、引き続き感染症防止対策の徹底を継続したい。令和３年１月７日から８日までの暴風雪による大規模停電により、給湯器が凍結し破損するといった被害を受けた。復旧まで１２日間かかったため、秋田ワークセンターと連携を図り、利用者の入浴支援を行った。

グループホームでは、家庭復帰した利用者やワークセンターでの入所期間が長期化していた利用者に対して体験利用を行うなど、地域移行の実現に努めた。利用者が安心して暮らせるよう、アセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを充足するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図った。

短期入所では、秋田市障がい福祉課や相談支援事業所等と連携を図り、地域生活支援拠点等の体制づくりを進めた。

入所者の利用にもワークセンターの関係者、利用者との話し合いを繰り返して年明けには利用定員（７名）を100%にすることができた。又、職員の勤務体制を夜勤体制から宿直体制にした。

令和２年度の事業実績は次のとおりである。

2　定員及び現員の状況　　（令和３年３月３１日現在）

共同生活援助　利用定員　７名／現員　７名（男性７名）
短期入所　　　利用定員　３名／現員　０名（男性０名）

3　職員配置の状況　　（令和３年３月３１日現在）

① 管理者　　1名（兼務）
② サービス管理責任者　　1名
③ 生活支援員　　1名
④ 世話人　　5名（兼務１名）
⑤ 事務員　　1名（兼務）
⑥ 夜間支援従事者　　8名（兼務８名）

4　事業の実施状況

（1）共同生活援助

利用者が安全で安心な日常生活を過すことができるよう夜間、休日における起床、就寝、食事提供、日常生活の相談及び助言等を行い、快適な生活を過ごすことができるよう支援を行った。

又、個別支援計画は、利用者のニーズに基づいた支援が提供できるよう作成し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援し、行政機関や他の障害福祉サービス事業所等と密接な連携に努めた。

（2）短期入所

利用者又はその家族の緊急時における宿泊を伴う支援を提供するため、利用者の身体その他の状況及び置かれている環境に講じた、入浴や排せつ、食事の介護等必要な支援を適切かつ効果的に

行った。
　また、行政機関や他の障害福祉サービス事業所等と密接な連携に努めた。

5　給食提供の状況

（1）日々の食事が美味しく家庭的な雰囲気の中で、栄養バランスや体調に配慮し、季節を感じられるよう四季の郷土食等も交えて提供した。又、食前の手洗い、うがいを励行し、食中毒及び感染症の予防を徹底した。

（2）調理者の健康管理（腸内細菌検査等）及び衛生管理（手洗い、清潔な服装等）に留意し、集団食中毒及び感染症の予防対策に万全を期すとともに、台所の衛生管理（食器・調理器具等の消毒、調理環境の清掃、整理整頓等）に努めた。

6　健康管理の状況

　入居者の定期通院や内服管理の支援を行うとともに、血圧測定等を定期的に行うなど、病気の早期発見、早期治療に努めた。

7　衛生管理の状況

（1）寝具類の交換及びシーツ交換

　寝具類（枕、敷・掛布団等）の交換を年１回、シーツ・カバー類（枕カバー、シーツ、布団カバー）の交換を週１回行い寝具類の清潔に努めた。

（2）居室、浴室等の清掃

　利用者が自ら居室の清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃）を行うよう支援するとともに、共通部分である浴室、脱衣室、廊下、食堂等の清掃を行い衛生管理に努めた。

（3）入浴

　入浴日を週３回とし、希望によりシャワー浴も提供した。又、快適に、そして安全に入浴ができるよう、利用者の状況にあった支援に心掛けた。

8　災害事故防止等訓練の状況

（1）防災計画

　きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

（2）避難訓練

　所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間想定も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難、消火器操作訓練等）や、地震想定の避難訓練を行い、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。又、災害時や停電時における安全対策や機械器具装置の操作手順の周知に努めた。

9　利用者の状況　（令和２年４月１日～令和３年３月３１日）

（1）共同生活援助

①市町村別の利用者数　(名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
秋田市	２	２		４

能代市	2			2
男鹿市	1			1
合計	5	2		7

②年齢別状況 (名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
20 歳未満				
20～29				
30～39				
40～49				
50～59	3			3
60 歳以上	2	2		4
合計	5	2		7
平均年齢	57 歳	65 歳		61 歳

③入所利用の経路 (名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
施設	4			4
自宅	1	2		3
病院				
その他				
合計	5	2		7

④退所利用者数と退所理由 (名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
自宅	1			1
他施設				
アパート				
その他				
合計	1			1

⑤障害程度 (名)

区分	身体障害者手帳						療育手帳		合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	A	B	
等級	2	3						2	7

（2）短期入所

①市町村別の利用者数 (名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
秋田市	4	8		12
合計	4	8		12

②年齢別状況 (名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
20 歳未満	1	1		2	17%

20～29 歳	1	1		2	17%
30～39 歳	1	2		3	24%
40～49 歳	1	4		5	42%
50～59 歳					
60 歳以上					
合計	4	8		12	100%
平均年齢	29 歳	47 歳		38 歳	

③月別利用者数　(名)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
延人数	1	0	16	6	6	19	41	15	6	34	26	5	175
実人数	1	0	3	1	1	4	3	4	1	3	4	1	26

10　職員の定期健康診断

月日	実施人員	検査項目	健診機関
5 月 26 日 6 月 3 日 6 月 23 日 7 月 15 日	1 名 2 名 1 名 1 名	35 歳以下 胸部X線検査、尿検査、心電図、採血検査他 35 歳以上 生活習慣病予防検査、大腸がん検査、乳癌、子宮がん、胃検診	秋田赤十字病院 ふき健診クリニック

11　避難訓練の実施状況

月日	訓練内容詳細
6 月 20 日	避難誘導
9 月 12 日	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作
令和 3 年 3 月 27 日	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作

12　会議・研修の実施

月日	内容	出席者
12 月 16 日 令和 3 年 2 月 3 日	地域生活支援拠点の運営に関する作業部会 福祉サービスに関わる苦情解決研修会（上級編）	サービス管理責任者